

Vol.
207

Handa Byouin Dayori

半田病院だより



新病院建設現場全景写真(令和6年5月18日撮影)

令和7年4月1日の新病院開院まで約9か月。建物の骨格が出来上がりました。屋上には、ドクターヘリが離着陸できるようにヘリポートを設置しています。(写真の中央)

半田市立半田病院 広報部会

新任医師紹介

4月から半田病院で勤務する医師を紹介します。地域の皆様の健康を守るよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします!



消化器内科
今枝 秀斗



呼吸器内科
多湖 真弓



糖尿病・内分泌内科
栗田 研人



糖尿病・内分泌内科
鈴木 崇仁



脳神経内科
近藤 隼人



脳神経内科
小嶋 瑠里子



循環器内科
高原 邦彦



循環器内科
大垣内 琢也



循環器内科
桐谷 元樹



小児科
野村 勇樹



整形外科
春田 真利



整形外科
高橋 亮哉



脳神経外科
佐久間 貴史



皮膚科
山室 周子



産婦人科
竹中 実咲



麻酔科
一木 優太郎



歯科・歯科口腔外科
佐藤 春樹



歯科・歯科口腔外科
豊田 浩章

研修医紹介

4月から半田病院で勤務する8名の研修医です!

まだまだ未熟ですが、たくさんの経験を積んで少しでもはやく一人前になれるよう頑張りますので、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがよろしくお願いいたします。

半田病院は臨床研修指定病院です

臨床研修指定病院とは、研修医が卒後2年間、基本的な手技、知識を身につけるため籍を置く、つまり経験を積む、腕を磨く場を提供する病院です。当院も国から臨床研修指定病院として認定を受け、次世代の医師を育成する役割を担っております。現在、当院には16名の研修医が在籍しており、一人前の医師になるため、日々研修に励んでいます。研修医のみでなく、新人看護職員も1年間の教育プログラムに沿った教育を受けています。

研修医同様に、安全・安心な看護を提供するため日々切磋琢磨して学んでいます。また、地域社会に貢献できる医療人を育成するため、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士・作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、管理栄養士など、さまざまな医療職を目指す学生の臨地実習を受け入れております。これからの地域医療を担う若い世代の研修の機会として、救命救急センターや外来・病棟などにおいてかかわらせていただくことがあります。ご理解・ご協力をお願いいたします。

看護師紹介

4月から半田病院に就職した新人看護師28名です。まだまだ不安でいっぱいですが、様々な経験を積んで、なりたい自分に近づいていきたいと思います。

患者さん一人一人に寄り添い、信頼される看護師を目指して頑張りますので、皆さんよろしくお願いいたします。



新入職員紹介

～4月1日採用オリエンテーションの様子～

4月1日(月)に、新入職員(新任医師以外)を対象に採用オリエンテーションを行いました!

今年度は研修医(8名)・助産師(1名)・看護師(28名)・薬剤師(3名)・理学療法士(3名)・作業療法士(1名)・言語聴覚士(2名)・放射線技師(4名)・臨床検査技師(4名)・臨床工学技士(2名)・事務職(5名)が仲間入りをしています!

新社会人になったばかりの職員がほとんどで不安だったと思いますが、無事に乗り切ることができました!



～4月2日新入職員研修の様子～

4月2日(火)には、全職種合同で研修を行いました!

この研修は半田病院を知ることと同時に、同期の仲を深めることを目的としています。

3次救急を担っており、知多半島の医療を支えている当院では、患者さんの命を守るため、常に他職種と連携・協力をして業務を行う必要があります。

今回の研修では、他職種の仲間と協力して仕事を行う大切さを学ぶことができたと思います!



モバイルAED隊活動報告

救急看護認定看護師 岩崎 翼

<はじめに>

はんだ山車まつりは5年に一度、市内10地区31輛の山車が集結する、半田をあげて行われる勇壮な祭りイベントです。豪華な彫刻や幕などに装飾された山車が、勇壮な曳き廻しの後、一堂に会す様子はまさに圧巻で、見るものを魅了します。前回開催からコロナ禍のため1年延期となった第9回はんだ山車まつりは昨年10月に開催されました。回を重ねるごとに観客は増え、今回の観客数は60万人と想定していました。人が集まれば怪我や事故、体調不良は発生しやすいものです。このような背景の中、半田病院では消防と連携した「モバイルAED隊」を結成し、第6回はんだ山車まつり(2007年)の時から活動をしています。今祭りでも終始会場ラウンドをしていたため「モバイルAED隊」を見かけた方も多いのではないでしょうか。

<モバイルAED隊とは>

モバイルAED隊は医師(今祭りは救急科だけでなく様々な科と協働)・救急救命士・看護師・コメディカルの多職種で構成され、1チーム4～5名で活動します。モバイルAED隊の目的は、心肺停止や外傷等の怪我人の迅速な処置とそれら傷病者の迅速な発見です。実際に第6回はんだ山車まつりでは観客の中から心肺停止者が発生し、迅速にAEDを実施した結果、社会復帰した例があります。今祭りでは、幸いにも心肺停止者は発生しなかったものの、2日間で28名の傷病者対応を行いました。うち1名は「突然の胸の痛み」を訴えられる方でしたが、対応したモバイルAED隊により迅速な心筋梗塞の診断と初期対応を現場で行い、半田病院へ迅速搬送することができました。その方は幸い社会復帰でき、今は元気に生活されています。モバイルAED隊の活動は回を重ねるごとに強化しており、今祭りでは観客の動きや過去の傷病者発生場所データから流動的に循環器内科医師がいるモバイルAED隊を配置していたことも功を奏したと思います。

<御礼>

モバイルAED隊が活動する際には、その特殊性から祭りを楽しんでいる方々の間を走り時にご迷惑をお掛けしたこともあるかと思えます。皆様のご理解ご協力を頂いたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

リウマチ性疾患について

リウマチ科 医師 吉岡 裕

リウマチ性疾患とは関節や結合組織に異常をきたす疾患の総称です。

その中で当院リウマチ科では関節リウマチ、変形性関節症を中心として治療を行っております。

関節リウマチとは関節腫脹を主体とする疾患であり、放置しておくとう関節破壊が進み関節変形へと進行し生活に著しい障害が生じます。しかしながら、関節リウマチに対しては世界的に治療体系が確立しつつあり、当科ではその方針にのっとり早期よりアンカードラッグであるメトトレキサートを使用しております。それでも効果不十分な患者さんには先進的医療である生物学的製剤、JAK阻害薬を積極的に使用することにより大多数の患者さんが寛解状態(関節腫脹・痛み・炎症所見がない状態)に至っております。ただ、このような先進医療は高額であり、生物学的製剤の後発品であるバイオシミラーの使用やJAK阻害薬の半量投与を行うことにより患者さんの経済的負担を減らす努力をしております。現在、350名以上の関節リウマチ患者さんの治療を行っており、その中で150名以上の患者さんに生物学的製剤もしくはJAK阻害薬を使用し治療にあたっております。残念ながら変形してしまった関節に関しては薬物療法では改善しないため、希望のある患者さんに関して手術療法(人工関節・関節固定術・関節形成術など)を行っております。

変形性関節症は加齢もしくは外傷などにより関節軟骨が損傷し、すり減ることにより関節が変形していく疾患です。主に膝や股関節に生じることが多く、ヒアルロン酸の関節注射や痛み止めの内服、リハビリなどで改善がない場合、人工関節置換術などの手術療法の適応となります。

当科では年間100件以上の人工関節置換術を行っております。

膝関節に対する人工関節置換術に関してはMIS(最少侵襲手術)を導入し、小さな皮膚切開(10センチ前後)、最小限の軟部組織の剥離を行うことで術後の痛みの軽減、早期のリハビリテーションに努めております。また、手術終了直前に痛み止めや止血剤の入ったカクテル注射を投与することにより、さらなる痛みの緩和に努めております。

股関節に対する人工関節置換術に関してはMISはもちろんのことCT画像を利用したナビゲーションシステムを導入しており、インプラントをより正確により安全に設置することが可能となっております。

関節リウマチ、変形性関節症などの関節疾患でお困りの患者さんはぜひ当科へ受診していただき、痛みのない生活に戻る手助けをさせて頂ければ幸いです。





NICU (新生児集中治療室)について

当院には、地域母子周産期センターの中に NICU があります。NICU に入院する赤ちゃんは早く小さく産まれた赤ちゃんだけではなく、生まれた時に呼吸が上手くできなかつたり、生まれつき病気を持っている赤ちゃん達が入院します。赤ちゃんは小さいながらも大きな生命力で日々、成長発達をしています。医師の他多数のスタッフが協力し赤ちゃんのお世話をしています。人生のスタートを迎え、頑張っている赤ちゃんを見ていると元気をもらえます。時々につこりされるとスタッフはもうメロメロです。赤ちゃんが退院する時にお見送りをすることが、一番嬉しく感じる瞬間です。

+ 病院だより+ 新病院コラム その 17



新病院JV

今年10月末の新病院完成まで、残すところ4か月となりました。令和4年7月の造成工事着手以来2年が経過したわけですが、担当者としては本当に「あつという間」の2年間でした。着工時には6〜7段の農地だった敷地も(写真1)、今では大きく変貌しました。(表紙写真)

建物の外観は、足場やネットなどで覆われているため、外からはなかなかご覧いただくことはできませんが、順調に工事が進んでいます。(写真2)

外壁には建具を取り付け、耐候性のある塗装をしています。屋上は、雨漏りがしないように防水工事をしています。内部工事も着実に進んでいます。

病院のような大規模な建物では、多くの場合、軽量鉄骨下地(LGS)に石膏ボードを貼って間仕切り壁を作っていきます。(写真3)このボードの上にクロスを貼ったり、塗装をするなどして、内装を仕上げていきます。

設備工事も順調に進み、電気室には高圧受電設備も据え付けられました。(写真4)

本体工事竣工後も、植栽工事や医療機器の搬入などが続きます。

皆様には今後も大変ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



写真1 現場全景写真(令和4年6月20日撮影)



写真2 外壁施工状況



写真3 間仕切り壁施工状況



写真4 高圧受電設備(電気室)

半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 愛知県半田市東洋町2丁目29番地 TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



YouTube